

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-272266

(P2007-272266A)

(43) 公開日 平成19年10月18日(2007. 10. 18)

(51) Int. Cl.

F I

テーマコード (参考)

G06Q 50/00 (2006.01)

G06F 17/60 1 O 4

G06Q 10/00 (2006.01)

G06F 19/00 3 O O J

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 18 頁)

(21) 出願番号 特願2006-93449 (P2006-93449)

(22) 出願日 平成18年3月30日 (2006. 3. 30)

(71) 出願人 000001443

カシオ計算機株式会社

東京都渋谷区本町1丁目6番2号

(74) 代理人 100090033

弁理士 荒船 博司

(74) 代理人 100093045

弁理士 荒船 良男

(72) 発明者 安倍 美枝子

東京都八王子市石川町2951番地5 カ

シオ計算機株式会社八王子技術センター内

(54) 【発明の名称】 出来高管理システム及びプログラム

(57) 【要約】

【課題】 契約内容に追加や削除が生じた場合であっても、複数回分の出来高情報を正確に記載した出来高明細書を提供する。

【解決手段】 出来高入力毎に、各工事項目に対応する出来高金額を出来高明細ファイル74の「今回出来高金額」に格納させるとともに、契約明細ファイル72の「索引番号0」～「索引番号9」と出来高明細ファイル74の「索引番号」に、共通の索引番号を格納させる。すなわち、索引番号により、各工事項目と出来高金額とが結び付けられる。出来高明細書を印刷する際には、出来高入力毎に、索引番号に基づいて、各工事項目に対応する出来高金額を取得し、複数回分の出来高金額を記載した出来高明細書を提供する。

【選択図】 図10

工事番号	出来高回数	出来高回数 十の位	出来高回数 一の位	区分	工事項目	契約金額	索引番号0	索引番号1	索引番号2	索引番号3	...	索引番号9
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0	0	0001				
000001	000001	0	002	01	金付セガラス	10,000		0002				
000001	000001	0	003	01	押入れガラス	15,000		0003				
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000		0004				
000001	000001	0	005	02	障子工事	0		0005				
000001	000001	0	006	01	障子ペン	30,000		0006				
000001	000001	0	007	01	金付障子	10,000		0007				
000001	000001	0	008	01	金付障子	11,500		0008				
000001	000001	0	009	03	*小計*	44,500		0009				
000001	000001	0	010	02	床工事	0		0010				
000001	000001	0	011	01	ハイストレー	5,000		0011				
000001	000001	0	012	03	*小計*	5,000		0012				

工事番号	出来高回数	出来高回数 十の位	出来高回数 一の位	索引番号	今回出来高金額
000001	01	000001	0001	0001	1,000
000001	01	000001	0002	0002	500
000001	01	000001	0003	0003	1,500
000001	01	000001	0004	0004	1,000
000001	01	000001	0005	0005	10,000
000001	01	000001	0006	0006	3,000
000001	01	000001	0007	0007	5,000
000001	01	000001	0008	0008	13,000
000001	01	000001	0010	0010	500

(a)

(b)

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

少なくとも複数の工事項目、契約情報及び第 1 の索引情報を対応付けて表形式で格納する契約明細ファイルを記憶する契約明細記憶手段と、

前記各工事項目に対応する複数回分の出来高情報及び第 2 の索引情報を対応付けて表形式で格納する出来高明細ファイルを記憶する出来高明細記憶手段と、

前記各工事項目に対応する出来高情報を入力するための入力手段と、

前記出来高情報の入力毎に、前記各工事項目に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルに格納させるとともに、前記第 1 の索引情報及び前記第 2 の索引情報として共通又は対応する索引情報を前記契約明細ファイル及び前記出来高明細ファイルにそれぞれ格納させる結び付け手段と、

10

印刷を行う印刷手段と、

前記第 1 の索引情報及び前記第 2 の索引情報に基づいて、前記各工事項目と当該各工事項目に対応する複数回分の出来高情報とを記載した出来高明細書を前記印刷手段に印刷させる印刷制御手段と、

を備えたことを特徴とする出来高管理システム。

【請求項 2】

前記契約明細ファイル中の前記工事項目及び前記契約情報を行単位で追加する追加手段を備えたことを特徴とする請求項 1 に記載の出来高管理システム。

【請求項 3】

前記契約明細ファイル中の前記工事項目、前記契約情報及び前記第 1 の索引情報を行単位で削除する削除手段を備えたことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の出来高管理システム。

20

【請求項 4】

前記印刷制御手段は、前記契約明細ファイルから前記各工事項目に対応する第 1 の索引情報を取得し、当該取得された第 1 の索引情報と共通又は対応する第 2 の索引情報を前記出来高明細ファイルから検索し、当該検索された第 2 の索引情報に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルから取得し、当該取得された出来高情報を前記出来高明細書における前記各工事項目に対応する印刷対象として設定することを特徴とする請求項 1～3 のいずれか一項に記載の出来高管理システム。

30

【請求項 5】

前記出来高情報は、出来高金額、出来高数量、出来高金額率又は出来高数量率であることを特徴とする請求項 1～4 のいずれか一項に記載の出来高管理システム。

【請求項 6】

コンピュータを、

少なくとも複数の工事項目、契約情報及び第 1 の索引情報を対応付けて表形式で格納する契約明細ファイルを記憶させる契約明細記憶手段、

前記各工事項目に対応する複数回分の出来高情報及び第 2 の索引情報を対応付けて表形式で格納する出来高明細ファイルを記憶させる出来高明細記憶手段、

前記各工事項目に対応する出来高情報を入力する入力手段、

40

前記出来高情報の入力毎に、前記各工事項目に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルに格納させるとともに、前記第 1 の索引情報及び前記第 2 の索引情報として共通又は対応する索引情報を前記契約明細ファイル及び前記出来高明細ファイルにそれぞれ格納させる結び付け手段、

印刷を行う印刷手段、

前記第 1 の索引情報及び前記第 2 の索引情報に基づいて、前記各工事項目と当該各工事項目に対応する複数回分の出来高情報とを記載した出来高明細書を前記印刷手段に印刷させる印刷制御手段、

として機能させるためのプログラム。

【発明の詳細な説明】

50

【技術分野】

【0001】

本発明は、工事の出来高情報を管理する出来高管理システム及びプログラムに関する。

【背景技術】

【0002】

一般に、工事業界では、工事期間が長期に渡るため、ある期間毎（例えば、2か月毎等）に、各工事項目に対して工事が終了した部分についてかかった材料の金額や数量率等（出来高）に基づいて請求を行う（出来高請求）。

【0003】

例えば、建築工事の検査対象物に対する各種工事の出来高をチェックするために、検査項目別の出来高状況を表示する出来高管理システムが提案されている（特許文献1参照）。

【特許文献1】特開平7-207939号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、工事の途中で工事内容が追加されたり、不要となる材料が発生したり等、契約内容に変更が生じる場合がある。出来高の入力は、その時点での契約明細に対して行うため、元となる契約明細に契約内容の追加や削除が発生すると、契約明細に対する出来高入力時の明細の位置（行番号）が変更されてしまい、印刷時に契約明細情報と、各回の出来高情報との結び付けができなかった。このため、契約明細情報と出来高情報とを対応付けて出来高明細書を印刷することや、過去に入力した出来高を含めた複数回分の出来高情報をまとめて印刷することは容易ではなかった。

【0005】

例えば、出来高明細書を印刷する際には、途中で追加された工事の明細は印刷したいが、不要となった工事の明細は印刷したくない。また、複数回分の出来高情報をまとめて印刷できるようにしたい、という要求があった。

【0006】

本発明は、契約内容に追加や削除が生じた場合であっても、複数回分の出来高情報を正確に記載した出来高明細書を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0007】

上記課題を解決するために、請求項1に記載の出来高管理システムは、少なくとも複数の工事項目、契約情報及び第1の索引情報に対応付けて表形式で格納する契約明細ファイルを記憶する契約明細記憶手段と、前記各工事項目に対応する複数回分の出来高情報及び第2の索引情報に対応付けて表形式で格納する出来高明細ファイルを記憶する出来高明細記憶手段と、前記各工事項目に対応する出来高情報を入力するための入力手段と、前記出来高情報の入力毎に、前記各工事項目に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルに格納させるとともに、前記第1の索引情報及び前記第2の索引情報として共通又は対応する索引情報を前記契約明細ファイル及び前記出来高明細ファイルにそれぞれ格納させる結び付け手段と、印刷を行う印刷手段と、前記第1の索引情報及び前記第2の索引情報に基づいて、前記各工事項目と当該各工事項目に対応する複数回分の出来高情報とを記載した出来高明細書を前記印刷手段に印刷させる印刷制御手段と、を備えたことを特徴としている。

【0008】

請求項2に記載の発明は、請求項1に記載の出来高管理システムにおいて、前記契約明細ファイル中の前記工事項目及び前記契約情報を行単位で追加する追加手段を備えたことを特徴としている。

【0009】

請求項3に記載の発明は、請求項1又は2に記載の出来高管理システムにおいて、前記

契約明細ファイル中の前記工事項目、前記契約情報及び前記第1の索引情報を行単位で削除する削除手段を備えたことを特徴としている。

【0010】

請求項4に記載の発明は、請求項1～3のいずれか一項に記載の出来高管理システムにおいて、前記印刷制御手段は、前記契約明細ファイルから前記各工事項目に対応する第1の索引情報を取得し、当該取得された第1の索引情報と共通又は対応する第2の索引情報を前記出来高明細ファイルから検索し、当該検索された第2の索引情報に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルから取得し、当該取得された出来高情報を前記出来高明細書における前記各工事項目に対応する印刷対象として設定することを特徴としている。

【0011】

請求項5に記載の発明は、請求項1～4のいずれか一項に記載の出来高管理システムにおいて、前記出来高情報は、出来高金額、出来高数量、出来高金額率又は出来高数量率であることを特徴としている。

【0012】

請求項6に記載の発明は、コンピュータを、少なくとも複数の工事項目、契約情報及び第1の索引情報に対応付けて表形式で格納する契約明細ファイルを記憶させる契約明細記憶手段、前記各工事項目に対応する複数回分の出来高情報及び第2の索引情報に対応付けて表形式で格納する出来高明細ファイルを記憶させる出来高明細記憶手段、前記各工事項目に対応する出来高情報を入力する入力手段、前記出来高情報の入力毎に、前記各工事項目に対応する出来高情報を前記出来高明細ファイルに格納させるとともに、前記第1の索引情報及び前記第2の索引情報として共通又は対応する索引情報を前記契約明細ファイル及び前記出来高明細ファイルにそれぞれ格納させる結び付け手段、印刷を行う印刷手段、前記第1の索引情報及び前記第2の索引情報に基づいて、前記各工事項目と当該各工事項目に対応する複数回分の出来高情報とを記載した出来高明細書を前記印刷手段に印刷させる印刷制御手段、として機能させるためのプログラムである。

【発明の効果】

【0013】

請求項1及び6に記載の発明によれば、第1の索引情報及び第2の索引情報によって、各工事項目と各工事項目に対応する出来高情報とを結び付けることができる。そして、第1の索引情報及び第2の索引情報に基づいて、各工事項目と各工事項目に対応する複数回分の出来高情報とを記載した出来高明細書を印刷するので、契約内容に追加や削除が生じた場合であっても、複数回分の出来高情報を正確に記載した出来高明細書を提供することができる。

【0014】

請求項2に記載の発明によれば、契約内容に追加が生じた場合に、契約明細ファイル中の工事項目及び契約情報を行単位で追加するので、追加された契約内容を反映させて、出来高明細書を正確に印刷することができる。

【0015】

請求項3に記載の発明によれば、契約内容に削除が生じた場合に、契約明細ファイル中の工事項目、契約情報及び第1の索引情報を行単位で削除するので、削除された契約内容については印刷を行わずにすむ。

【0016】

請求項4に記載の発明によれば、共通又は対応する第1の索引情報及び第2の索引情報に基づいて、各工事項目に対応する出来高情報を印刷対象として設定することができる。

【0017】

請求項5に記載の発明によれば、出来高情報として、出来高金額、出来高数量、出来高金額率又は出来高数量率を記載した出来高明細書を印刷することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0018】

以下、本発明の実施の形態における出来高管理システム100について説明する。

10

20

30

40

50

図1は、出来高管理システム100の機能的構成を示すブロック図である。図1に示すように、出来高管理システム100は、CPU（Central Processing Unit）10、入力部20、表示部30、通信部40、ROM（Read Only Memory）50、RAM（Random Access Memory）60、記憶部70、プリンタ80を備え、各部はバス90により接続されている。

【0019】

CPU10は、ROM50に記憶されている各種プログラムの中から指定されたプログラムを読み出し、RAM60内のワークエリアに展開し、上記プログラムとの協働によって各種処理を実行し、その処理結果をRAM60の所定の領域に格納するとともに、表示部30に表示させる。そして、RAM60に格納した処理結果を記憶部70内の指定の保存先に保存させる。

10

【0020】

入力部20は、文字キー、カーソルキー及びテンキー等を有するキーボードやマウス等のポインティングデバイスを備え、押下されたキーの押下信号や、マウスの位置信号等をCPU10に出力する。

【0021】

表示部30は、LCD（Liquid Crystal Display）等により構成され、CPU10から入力される表示信号の指示に従って、各種指示に対応する入力画面や各種処理の結果等を表示する。

【0022】

通信部40は、外部の装置との間で通信を行うための機能部であり、モデムやLANインターフェイス、USB等を備えて構成される。通信部40は、例えば、外部の装置に保存されている見積明細ファイル42や工事台帳ファイル44からデータを受信する。

20

【0023】

図2に、見積明細ファイル42の構成例を示す。図2に示すように、見積明細ファイル42には、見積明細に対応する見積書番号、行番号、区分、工事項目、見積金額等が格納されている。「区分」は、「工事項目」の欄に格納される内容を区別するための情報である。「工事項目」の欄に通常の工事項目が格納されている場合には、「区分」は“01”となる。「工事項目」の欄に工事分類が格納されている場合には、「区分」は“02”となり、見積明細ファイル42における工事分類の1括りの開始を示す。「工事項目」の欄に“＊小計＊”が格納されている場合には、「区分」は“03”となり、見積明細ファイル42における工事分類の1括りの終了を示す。「見積金額」とは、各工事項目に対する費用として見積もられた金額である。

30

【0024】

図3に、工事台帳ファイル44の構成例を示す。図3に示すように、工事台帳ファイル44には、工事番号、見積書番号、工事名、契約合計金額等、受注が確定した工事に関する情報が格納されている。

【0025】

ROM50には、出来高管理システム100を制御するための主制御プログラムや、このプログラムに係る各種アプリケーションプログラムが格納されている。

40

【0026】

具体的には、ROM50には、出来高準備処理プログラム、契約内容変更処理プログラム、出来高明細入力処理プログラム、出来高明細書印刷処理プログラム、行追加処理プログラム、行削除処理プログラムが記憶されている。CPU10と出来高明細入力処理プログラムとの協働によって、特許請求の範囲に記載の結び付け手段が実現される。また、CPU10と出来高明細書印刷処理プログラムとの協働によって、特許請求の範囲に記載の印刷制御手段が実現される。また、CPU10と行追加処理プログラムとの協働によって、特許請求の範囲に記載の追加手段が実現される。また、CPU10と行削除処理プログラムとの協働によって、特許請求の範囲に記載の削除手段が実現される。

【0027】

50

R A M 6 0 は、データが一時的に保存される記憶媒体であり、C P U 1 0 により実行されるプログラムや各処理における処理中のデータ、処理結果等を一時的に記憶するワークエリアを形成する。

【0028】

記憶部70は、磁氣的、光学的記録媒体、若しくは半導体メモリ等、C P U 1 0 で読み取り可能な記憶媒体を含み、各種処理プログラムやデータ等を記憶する。具体的には、記憶部70には、契約明細ファイル72、出来高明細ファイル74等が記憶される。

【0029】

プリンタ80は、C P U 1 0 により実行される出来高明細書印刷処理（図11参照）において出来高明細書を用紙に印刷して出力する。

10

【0030】

次に、動作を説明する。

図4は、出来高管理システム100において実行される出来高準備処理を示すフローチャートである。出来高準備処理は、工事毎に契約明細ファイル72を作成する際に行われる処理である。

【0031】

まず、表示部30に表示される「メニュー画面」において、入力部20から「出来高準備」機能が選択される。そして、入力部20から対象となる工事の工事番号が入力されると（ステップS1）、工事台帳ファイル44が参照され、工事台帳ファイル44から、入力された工事番号に対応する見積書番号が検索され、取得される（ステップS2）。

20

【0032】

次に、見積明細ファイル42が参照され、ステップS2において取得された見積書番号に対応する複数の工事項目、各工事項目に対応する区分及び見積金額が検索され、取得される（ステップS3）。

【0033】

そして、見積明細ファイル42から取得された情報に基づいて、図5に示すような契約明細ファイル72が作成される（ステップS4）。契約明細ファイル72には、「工事番号」、「見積書番号」、「出来高回数十の位」、「行番号」、「区分」、「工事項目」、「契約金額」、「索引番号0」～「索引番号9」が対応付けられて表形式で格納される。

【0034】

契約明細ファイル72の「工事番号」には、ステップS1において入力された工事番号が格納される。契約明細ファイル72の「見積書番号」には、ステップS2において取得された見積書番号が格納される。

30

【0035】

契約明細ファイル72の「出来高回数十の位」は、出来高の入力回数の十の位を示す値であり、契約明細ファイル72が新規に作成される場合には、“0”が格納される。10回目の出来高を入力する際に、「出来高回数十の位」を“1”として、契約明細ファイル72に同様の表が追加される。20回目、30回目等の出来高を入力する際も同様である。

【0036】

契約明細ファイル72の「行番号」は、契約明細ファイル72の各行に対応する番号であって、“001”から昇順に番号が振られる。「行番号」は、契約明細ファイル72の行挿入又は行削除に応じて、その都度振り直される。

40

【0037】

契約明細ファイル72の「区分」及び「工事項目」には、ステップS3において見積明細ファイル42から取得された「区分」及び「工事項目」がそれぞれ格納される。

【0038】

契約明細ファイル72の「契約金額」には、ステップS3において見積明細ファイル42から取得された「見積金額」の値が格納される。なお、“*小計*”に対応する「契約金額」の欄には、具体的な数値が入っているのではなく、工事分類毎の小計が自動計算さ

50

れるようになっている。

【0039】

「索引番号0」～「索引番号9」の「0」～「9」は、出来高の入力回数の一の位を示している。「索引番号0」～「索引番号9」には、契約明細ファイル72と出来高明細ファイル74とを結び付けるための索引番号（特許請求の範囲に記載の「第1の索引情報」）が格納される。例えば、1回目の出来高入力については、「出来高回数十の位」が“0”で「索引番号1」の欄に索引番号が格納され、15回目の出来高入力については、「出来高回数十の位」が“1”で「索引番号5」の欄に索引番号が格納される。

【0040】

次に、図6を参照して、契約内容変更処理について説明する。契約内容変更処理は、見積作成時から出来高入力時までの間に契約内容に変更が発生した場合に、契約明細ファイル72の内容を変更する際に行われる処理である。 10

【0041】

まず、表示部30に表示される「メニュー画面」において、入力部20から「出来高書式設定」機能が選択される。次に、入力部20から契約内容の変更対象となる工事の工事番号が入力されると（ステップS11）、契約明細ファイル72が参照され、契約明細ファイル72から、入力された工事番号に対応する工事項目、契約金額等が検索される。そして、契約明細ファイル72から工事項目、契約金額等が取得され、表示部30に表示される（ステップS12）。 20

【0042】

図7に、表示部30に表示される出来高書式設定画面31の例を示す。図7に示す例では、契約明細ファイル72から取得された行番号、区分、工事項目、契約金額が表示されている。なお、出来高書式設定画面31に表示される「工事名」“渡辺邸新築工事”については、工事台帳ファイル44が参照され、工事台帳ファイル44からステップS11において入力された「工事番号」に対応する「工事名」が取得される。「工事名」の取得については、以下の処理においても同様である。

【0043】

次に、表示部30に表示された出来高書式設定画面31において、入力部20から変更対象となる工事項目又は契約金額の位置が指定され、工事項目又は契約金額が入力される（ステップS13）。入力された工事項目又は契約金額は、契約明細ファイル72の該当する領域へ格納され、契約明細ファイル72が更新される。 30

【0044】

次に、図8を参照して、出来高明細入力処理について説明する。出来高明細入力処理は、契約明細ファイル72の各工事項目に対応する出来高金額を入力する際に行われる処理である。

【0045】

まず、表示部30に表示される「メニュー画面」において、入力部20から「出来高明細入力」機能が選択される。次に、入力部20から対象となる工事の工事番号が入力されると（ステップS21）、契約明細ファイル72の、入力された工事番号に対応する「出来高回数十の位」の値と、「索引番号0」～「索引番号9」が参照され、これらの情報に基づいて、最終出来高回数が取得される（ステップS22）。具体的には、契約明細ファイル72の「出来高回数十の位」の値から最終出来高回数の十の位が判断され、「索引番号0」～「索引番号9」に値が入っているか否かによって、最終出来高回数の一の位が判断される。なお、最終出来高回数を記憶するデータファイルが別に設けられている場合には、そのファイルから最終出来高回数を取得してもよい。 40

【0046】

次に、契約明細ファイル72が参照され、契約明細ファイル72から、入力された工事番号に対応する工事項目等が検索される。そして、契約明細ファイル72から工事項目等が取得され、表示部30に表示される（ステップS23）。図9に、表示部30に表示される出来高明細入力画面32の例を示す。図9は、契約明細ファイル72から取得された 50

行番号及び工事項目が表示され、各工事項目に対応する出来高金額が入力される前の状態の画面例である。

【0047】

そして、表示部30に表示される出来高明細入力画面32において、入力部20から出来高金額を入力する工事項目が指定され、各工事項目に対応する出来高金額が入力される（ステップS24）。入力された出来高金額は、出来高明細ファイル74に格納される（ステップS25）。

【0048】

図10（b）は、1回目の出来高入力後の出来高明細ファイル74の例である。出来高明細ファイル74には、「工事番号」、「出来高回数」、「見積書番号」、「索引番号」10
、「今回出来高金額」が対応付けられて表形式で格納される。

【0049】

出来高明細ファイル74の「工事番号」には、ステップS21において入力された工事番号が格納される。出来高明細ファイル74の「出来高回数」には、今回の出来高入力回数（ステップS22において取得された最終出来高回数の次の値）が格納される。出来高明細ファイル74の「見積書番号」には、ステップS21において入力された工事番号に対応する見積書番号が、契約明細ファイル72から取得され、格納される。

【0050】

出来高明細ファイル74の「索引番号」には、契約明細ファイル72と出来高明細ファイル74とを結び付けるための索引番号（特許請求の範囲に記載の「第2の索引情報」）20
が格納される。出来高明細ファイル74の「今回出来高金額」には、出来高入力毎の各工事項目に対応する出来高金額が格納される。図10（b）に示すように、1回目の出来高入力後の出来高明細ファイル74の「今回出来高金額」には、各工事項目に対応する1回目の出来高金額が格納されている。

【0051】

次に、契約明細ファイル72と出来高明細ファイル74に共通の索引番号が発番される（ステップS26）。契約明細ファイル72では、「出来高回数十の位」が今回の出来高回数の十の位であって、今回の出来高回数の一の位に対応する索引番号欄（「索引番号0」～「索引番号9」）に、索引番号が格納される。出来高明細ファイル74では、今回の出来高回数に対応する「索引番号」の欄に、索引番号が格納される。30

【0052】

図10（a）は、1回目の出来高入力後の契約明細ファイル72の例である。図10（a）及び（b）に示すように、契約明細ファイル72の「出来高回数十の位」が“0”で「索引番号1」の欄と、出来高明細ファイル74の「出来高回数」が“01”の「索引番号」の欄には、共通の索引番号“0001”～“0012”が格納される。これにより、契約明細ファイル72の各工事項目と、出来高明細ファイル74の各出来高金額とが結び付けられる。例えば、図10（a）に示す契約明細ファイル72において、工事項目“合わせガラス”に対応する出来高入力1回目の索引番号は“0002”であり、図10（b）に示す出来高明細ファイル74によれば、索引番号“0002”に対応する「今回出来高金額」は“1,000”であることがわかる。40

【0053】

次に、図11を参照して、出来高明細書印刷処理について説明する。出来高明細書印刷処理は、工事項目、契約金額、これまでに入力された出来高金額を対応付けて印刷する処理である。印刷時の契約明細ファイル72を基準とするため、出来高準備処理の後に挿入され印刷時にも存在する契約内容については印刷されるが、削除された契約内容は印刷されない。

【0054】

図12に、表示部30に表示される出来高明細書印刷画面33の例を示す。この出来高明細書印刷画面33において、入力部20から出来高明細書の印刷対象となる工事の工事番号、何回目までの出来高金額を印刷するか（出来高回数）、出来高金額を何列毎に印刷50

するか（印刷列）が指定される。図12は、最終出来高回数が3の場合に、1回目から3回目までの出来高金額を3列に印刷するよう指定した場合の例である。

【0055】

まず、出来高回数*i*が1に設定され、行番号*j*が1に設定される（ステップS31）。次に、契約明細ファイル72が参照され、行番号*j*に対応する「区分」が“02”であるか否かが判断される（ステップS32）。

【0056】

行番号*j*に対応する「区分」が“02”である場合には（ステップS32；Yes）、出来高回数*i*、行番号*j*の工事項目に対する印刷対象はNULLに設定される（ステップS33）。すなわち、印刷結果は空欄となる。

10

【0057】

行番号*j*に対応する「区分」が“01”である場合には（ステップS32；No、ステップS34；Yes）、契約明細ファイル72において、出来高回数*i*、行番号*j*に対応する索引番号欄に値が入っているか否かが判断される（ステップS35）。契約明細ファイル72において、出来高回数*i*に対応する索引番号は、「出来高回数十の位」に格納されている値が出来高回数*i*の十の位の値であって、「索引番号0」～「索引番号9」の「0」～「9」が出来高回数*i*の一の位の値と合致するものから特定される。

【0058】

契約明細ファイル72において、出来高回数*i*、行番号*j*の索引番号欄に値が入っている場合には（ステップS35；Yes）、その索引番号*k*が取得され、出来高明細ファイル74の出来高回数*i*の索引番号欄から索引番号*k*が検索される。そして、出来高明細ファイル74から出来高回数*i*の索引番号*k*に対応する「今回出来高金額」が取得される（ステップS36）。取得された「今回出来高金額」は、出来高回数*i*、行番号*j*の工事項目に対する印刷対象として設定される（ステップS37）。

20

【0059】

例えば、図10（a）に示す例において、出来高回数*i* = 1、行番号*j* = 2（「区分」 = “01”）の場合には、「出来高回数十の位」が“0”、「索引番号1」の2行目の欄が参照される。ここには、索引番号“0002”が入っているので、図10（b）に示す出来高明細ファイル74の出来高回数“01”、索引番号“0002”に対応する「今回出来高金額」の欄が参照され、“1, 000”が印刷対象として設定される。

30

【0060】

ステップS35において、契約明細ファイル72の出来高回数*i*、行番号*j*の索引番号欄に値が入っていない場合には（ステップS35；No）、出来高回数*i*、行番号*j*の工事項目に対する印刷対象はNULLに設定される（ステップS33）。すなわち、印刷結果は空欄となる。

【0061】

ステップS34において、行番号*j*の「区分」が“01”でない場合（ステップS34；No）、すなわち、行番号*j*の「区分」が“03”の場合には、「区分」“02”の明細以降の「区分」“01”の工事項目に対応する出来高金額の合計金額が印刷対象として設定される（ステップS38）。

40

【0062】

例えば、図10（a）に示す例において、出来高回数*i* = 1、行番号*j* = 4（「区分」 = “03”）の場合には、契約明細ファイル72の行番号“001”（「区分」“02”）の明細以降の「区分」“01”の工事項目、すなわち、“合わせガラス”及び“複層ガラス”に対応する出来高金額の合計金額が印刷対象として設定される。

【0063】

ステップS33、ステップS37、ステップS38の後、出来高回数*i*について印刷対象の設定が終了したか否かが判断される（ステップS39）。出来高回数*i*について印刷対象の設定が終了していない場合には（ステップS39；No）、行番号*j*の値が1加算されて（ステップS40）、ステップS32に戻り、次の行に対する処理が繰り返される

50

。

【0064】

ステップS39において、出来高回数*i*について印刷対象の設定が終了した場合には（ステップS39；Yes）、出来高回数*i*が最終出来高回数*N*と等しいか否かが判断される（ステップS41）。出来高回数*i*が最終出来高回数*N*と等しくない場合には（ステップS41；No）、出来高回数*i*の値が1加算され、行番号*j*は出来高回数*i*のデータの開始行に設定され（ステップS42）、ステップS32に戻る。すなわち、次の出来高回数に対する処理が繰り返される。

【0065】

ステップS41において、出来高回数*i*が最終出来高回数*N*と等しい場合には（ステップS41；Yes）、プリンタ80により、各工事項目、各工事項目に対応する契約金額、及び出来高入力毎の各工事項目について設定された印刷対象（出来高金額、合計金額又はNULL）とを記載した出来高明細書が印刷され（ステップS43）、出来高明細書印刷処理が終了する。

10

【0066】

図13に、1回目の出来高入力後に、1回目の出来高金額を記載した出来高明細書を印刷した場合の印刷結果を示す。工事項目及び契約金額については、印刷時点での契約明細ファイル72のデータがそのまま印刷される。

【0067】

1回目の出来高金額については、図10（a）に示す契約明細ファイル72の「出来高回数十の位」が“0”で「索引番号1」の索引番号と合致する索引番号が、図10（b）に示す出来高明細ファイル74の「出来高回数」が“01”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。

20

【0068】

次に、図14を参照して、行追加処理について説明する。行追加処理は、契約明細ファイル72の契約内容を追加する際に行われる処理である。

【0069】

まず、表示部30に表示される「メニュー画面」において、入力部20から「出来高書式設定」機能が選択される。次に、入力部20から対象となる工事の工事番号が入力されると（ステップS51）、契約明細ファイル72が参照され、契約明細ファイル72から、入力された工事番号に対応する工事項目、契約金額等が検索される。そして、契約明細ファイル72から工事項目、契約金額等が取得され、表示部30に表示される（図7の出来高書式設定画面31参照）（ステップS52）。

30

【0070】

次に、表示部30に表示された出来高書式設定画面31において、入力部20から契約内容を追加するための行を挿入する位置が指定され、指定された行数分の行が挿入される（ステップS53）。そして、入力部20から、挿入された行に工事項目及び契約金額が入力され（ステップS54）、入力された工事項目及び契約金額は、契約明細ファイル72の該当する領域に格納される。さらに、契約明細ファイル72において、挿入された行に、挿入された行の前後の行と同一の工事番号、見積書番号、出来高回数十の位が追加され（ステップS55）、挿入された行以降の行番号が振り直される（ステップS56）。

40

【0071】

図15に、行追加処理後の契約明細ファイル72の例を示す。図15は、5～7行目に行を挿入し、“壁・天井工事”、“石膏ボード張”、“＊小計＊”を追加した例である。図10（a）の契約明細ファイル72と比較すると、5行目以降の行番号が振り直されていることがわかる。また、挿入された行については、既に出来高が入力されている索引番号欄は空欄となる。

【0072】

なお、出来高明細ファイル74に対しては、行追加処理による変更内容は反映されない。

50

【0073】

次に、行追加処理後、図15に示す契約明細ファイル72の状態、2回目の出来高が入力された場合について説明する。図16(a)は、2回目の出来高入力後の契約明細ファイル72の例であり、図16(b)は、2回目の出来高入力後の出来高明細ファイル74の例である。出来高明細ファイル74には、各工事項目に対応する2回目の出来高金額が格納されており、契約明細ファイル72と出来高明細ファイル74とは、共通の索引番号“0001”～“0015”によって結び付けられている。例えば、図16(a)に示す契約明細ファイル72において、工事項目“石膏ボード張”に対応する索引番号は“0006”であり、図16(b)に示す出来高明細ファイル74によれば、索引番号“0006”に対応する「今回出来高金額」は“11, 000”であることがわかる。

10

【0074】

図17に、2回目の出来高入力後に、1回目～2回目の出来高金額を記載した出来高明細書を印刷した場合の印刷結果を示す(図11の出来高明細書印刷処理参照)。工事項目及び契約金額については、印刷時点での契約明細ファイル72のデータがそのまま印刷される。すなわち、2回目の出来高入力前に追加された“壁・天井工事”、“石膏ボード張”、“*小計*”についても、追加した位置に印刷される。

【0075】

1回目の出来高金額については、図16(a)に示す契約明細ファイル72の「出来高回数」の位が“0”で「索引番号1」の索引番号と合致する索引番号が、図10(b)に示す出来高明細ファイル74の「出来高回数」が“01”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。出来高明細書において、1回目の出来高入力後に追加された明細については空欄となっている。

20

【0076】

2回目の出来高金額については、図16(a)に示す契約明細ファイル72の「出来高回数」の位が“0”で「索引番号2」の索引番号と合致する索引番号が、図16(b)に示す出来高明細ファイル74の「出来高回数」が“02”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。

【0077】

次に、図18を参照して、行削除処理について説明する。行削除処理は、契約明細ファイル72の契約内容を削除する際に行われる処理である。

30

【0078】

まず、表示部30に表示される「メニュー画面」において、入力部20から「出来高書式設定」機能が選択される。次に、入力部20から対象となる工事の工事番号が入力されると(ステップS61)、契約明細ファイル72が参照され、契約明細ファイル72から、入力された工事番号に対応する工事項目、契約金額等が検索される。そして、契約明細ファイル72から工事項目、契約金額等が取得され、表示部30に表示される(図7の出来高書式設定画面31参照)(ステップS62)。

【0079】

次に、表示部30に表示された出来高書式設定画面31において、入力部20から契約内容を削除する削除位置が指定され、指定された行数分の行が削除される(ステップS63)。そして、削除された行以降の行番号が振り直される(ステップS64)。

40

【0080】

図19に、行削除処理後の契約明細ファイル72の例を示す。図19は、図16(a)に示す状態の契約明細ファイル72から10～11行目の行を削除した例である。ここでは、取り消し線を用いて削除を示しているが、実際には、10～11行目の行がファイル上から削除されている。また、図16(a)の契約明細ファイル72と比較すると、10行目以降の行番号が振り直されていることがわかる。また、“*小計*”に対応する契約金額の値は自動計算されるため、“建具工事”の“*小計*”は、“フロアヒンジ”の契約金額と同じ値になっている。

【0081】

50

なお、出来高明細ファイル 7 4 に対しては、行削除による変更内容は反映されない。

【0082】

次に、行削除処理後、図 1 9 に示す契約明細ファイル 7 2 の状態で、3 回目の出来高が入力された場合について説明する。図 2 0 (a) は、3 回目の出来高入力後の契約明細ファイル 7 2 の例であり、図 2 0 (b) は、3 回目の出来高入力後の出来高明細ファイル 7 4 の例である。出来高明細ファイル 7 4 には、各工事項目に対応する 3 回目の出来高金額が格納されており、契約明細ファイル 7 2 と出来高明細ファイル 7 4 とは、共通の索引番号“0001”～“0013”によって結び付けられている。例えば、図 2 0 (a) に示す契約明細ファイル 7 2 において、工事項目“複層ガラス”に対応する索引番号は“0003”であり、図 2 0 (b) に示す出来高明細ファイル 7 4 によれば、索引番号“0003”に対応する「今回出来高金額」は“5, 000”であることがわかる。

【0083】

図 2 1 に、3 回目の出来高入力後に、1 回目～3 回目の出来高金額を記載した出来高明細書を印刷した場合の印刷結果を示す（図 1 1 の出来高明細書印刷処理参照）。工事項目及び契約金額については、印刷時点での契約明細ファイル 7 2 のデータがそのまま印刷される。

【0084】

1 回目の出来高金額については、図 2 0 (a) に示す契約明細ファイル 7 2 の「出来高回数」の位が“0”で「索引番号 1」の索引番号と合致する索引番号が、図 1 0 (b) に示す出来高明細ファイル 7 4 の「出来高回数」が“01”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。

【0085】

2 回目の出来高金額については、図 2 0 (a) に示す契約明細ファイル 7 2 の「出来高回数」の位が“0”で「索引番号 2」の索引番号と合致する索引番号が、図 1 6 (b) に示す出来高明細ファイル 7 4 の「出来高回数」が“02”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。2 回目の出来高入力後に削除された明細については、契約明細ファイル 7 2 に存在しないため、印刷対象レコードとして認識されず、出来高明細ファイル 7 4 に情報が存在していても印刷されない。

【0086】

3 回目の出来高金額については、図 2 0 (a) に示す契約明細ファイル 7 2 の「出来高回数」の位が“0”で「索引番号 3」の索引番号と合致する索引番号が、図 2 0 (b) に示す出来高明細ファイル 7 4 の「出来高回数」が“03”のレコードから検索され、その索引番号に対応する「今回出来高金額」が取得され、印刷される。

【0087】

以上説明したように、出来高管理システム 1 0 0 によれば、出来高入力毎に、契約明細ファイル 7 2 と出来高明細ファイル 7 4 に共通の索引番号を格納させることにより、各工事項目と各工事項目に対応する出来高金額とを結び付けることができる。そして、契約明細ファイル 7 2 の「索引番号 0」～「索引番号 9」に格納される索引番号と、出来高明細ファイル 7 4 の「索引番号」に格納される索引番号とに基づいて、各工事項目と各工事項目に対応する複数回分の出来高金額とを記載した出来高明細書を印刷するので、契約内容に追加や削除が生じた場合であっても、複数回分の出来高金額を正確に記載した出来高明細書を提供することができる。

【0088】

また、複数回の出来高入力間で契約内容に追加が生じた場合には、契約明細ファイル 7 2 中の工事項目及び契約金額を行単位で追加し、契約内容に削除が生じた場合には、契約明細ファイル 7 2 中の工事項目、契約金額及び索引番号を行単位で削除するので、契約内容の追加や削除を出来高明細書に反映させることができる。すなわち、契約明細ファイル 7 2 に変更が生じた場合でも、出来高明細書の印刷時における契約明細ファイル 7 2 に存在する各工事項目に対して出来高金額を印刷するので、途中で追加された工事項目については印刷可能であり、不要となった工事項目については印刷を行わない。また、印刷時の

契約明細ファイル 7 2 の明細の位置と、過去に入力した出来高明細ファイル 7 4 の明細の位置にズレがあった場合でも、正しい位置に過去の出来高金額を印刷することができる。

【0089】

また、契約明細ファイル 7 2 は、10 回、20 回という単位でレコードを追加するため、ファイルの容量を低減させることができる。

【0090】

なお、上記実施の形態における記述は、本発明に係る出来高管理システムの例であり、これに限定されるものではない。出来高管理システムを構成する各部の細部構成及び細部動作に関しても本発明の趣旨を逸脱することのない範囲で適宜変更可能である。

【0091】

例えば、上記実施の形態では、契約明細ファイル 7 2 に、契約情報として、契約金額が格納されている場合について説明したが、契約数量が格納されることとしてもよい。

【0092】

また、上記実施の形態では、出来高情報として出来高金額（今回出来高金額）を入力する場合について説明したが、出来高を数量で表した出来高数量、出来高を割合で表した出来高金額率又は出来高数量率を入力することとしてもよい。また、出来高数量、出来高金額率、出来高数量率、今回迄の累積（今回迄出来高金額、今回迄出来高数量、今回迄出来高金額率、今回迄出来高数量率）を印刷することとしてもよい。

【0093】

また、上記実施の形態では、出来高明細書印刷処理において、出来高入力毎に、これまでに入力された出来高金額を全て印刷することとしたが、印刷対象とする出来高回数を指定可能としてもよい。

【0094】

また、上記実施の形態では、契約明細ファイル 7 2 と出来高明細ファイル 7 4 とが、共通の索引番号によって結び付けられる場合について説明したが、番号に限らず、共通の索引情報によって結び付けられることとしてもよい。また、予め索引情報の対応関係を設定しておき、契約明細ファイル 7 2 と出来高明細ファイル 7 4 とが、互いに対応する索引情報によって結び付けられることとしてもよい。

【図面の簡単な説明】

【0095】

【図 1】本発明の実施の形態における出来高管理システム 100 の機能的構成を示すブロック図である。

【図 2】見積明細ファイル 4 2 の構成例を示す図である。

【図 3】工事台帳ファイル 4 4 の構成例を示す図である。

【図 4】出来高準備処理を示すフローチャートである。

【図 5】契約明細ファイル 7 2 の構成例を示す図である。

【図 6】契約内容変更処理を示すフローチャートである。

【図 7】出来高書式設定画面 3 1 の例を示す図である。

【図 8】出来高明細入力処理を示すフローチャートである。

【図 9】出来高明細入力画面 3 2 の例を示す図である。

【図 10】（a）は、1 回目の出来高入力後の契約明細ファイル 7 2 の例である。（b）は、1 回目の出来高入力後の出来高明細ファイル 7 4 の例である。

【図 11】出来高明細書印刷処理を示すフローチャートである。

【図 12】出来高明細書印刷画面 3 3 の例を示す図である。

【図 13】1 回目の出来高入力後の出来高明細書の印刷結果を示す図である。

【図 14】行追加処理を示すフローチャートである。

【図 15】行追加処理後の契約明細ファイル 7 2 の例を示す図である。

【図 16】（a）は、2 回目の出来高入力後の契約明細ファイル 7 2 の例である。（b）は、2 回目の出来高入力後の出来高明細ファイル 7 4 の例である。

【図 17】2 回目の出来高入力後の出来高明細書の印刷結果を示す図である。

10

20

30

40

50

【図 18】 行削除処理を示すフローチャートである。

【図 19】 行削除処理後の契約明細ファイル 72 の例を示す図である。

【図 20】 (a) は、3 回目の出来高入力後の契約明細ファイル 72 の例である。(b) は、3 回目の出来高入力後の出来高明細ファイル 74 の例である。

【図 21】 3 回目の出来高入力後の出来高明細書の印刷結果を示す図である。

【符号の説明】

【0096】

10 CPU

20 入力部

30 表示部

40 通信部

42 見積明細ファイル

44 工事台帳ファイル

50 ROM

60 RAM

70 記憶部

72 契約明細ファイル

74 出来高明細ファイル

80 プリンタ

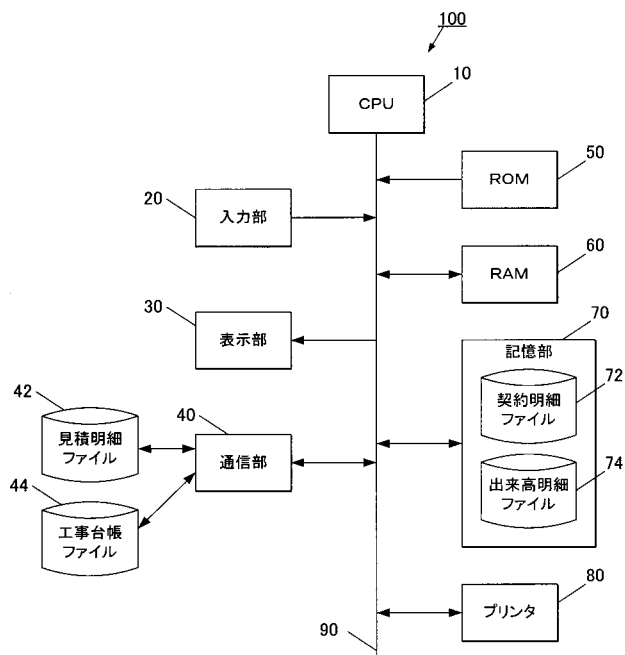
90 バス

100 出来高管理システム

10

20

【図 1】



【図 2】

42

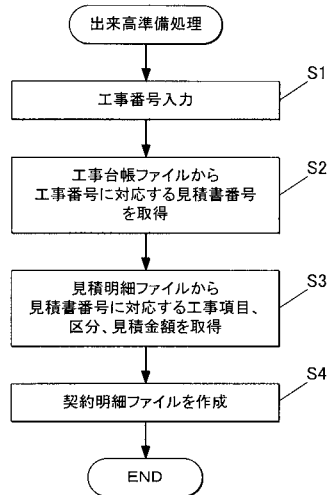
見積書番号	行番号	区分	工事項目	見積金額	...
000001	001	02	ガラス工事	0	
000001	002	01	合わせガラス	10,000	
000001	003	01	複層ガラス	15,000	
000001	004	03	*小計*	25,000	
000001	005	02	建具工事	0	
000001	006	01	フロアビンジ	30,000	
000001	007	01	引違いガラス窓	23,000	
000001	008	01	片開かまち戸	11,500	
000001	009	03	*小計*	64,500	
000001	010	02	床工事	0	
000001	011	01	ハイストーン	5,000	
000001	012	03	*小計*	5,000	

【図 3】

44

工事番号	見積書番号	工事名	契約合計金額
000001	000001	渡辺邸 新築工事	1,000,000
⋮	⋮	⋮	⋮

【図 4】

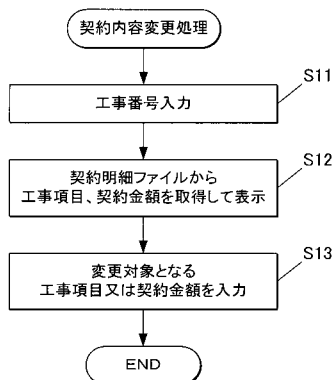


【図 5】

72

工事番号	見積書番号	出来高回数 の十の位	行番号	区分	工事項目	契約金額	集約番号 0	集約番号 1	集約番号 2	集約番号 3	...	集約番号 9
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0						
000001	000001	0	002	01	合わせガラス	10,000						
000001	000001	0	003	01	複層ガラス	15,000						
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000						
000001	000001	0	005	02	種員工事	0						
000001	000001	0	006	01	フロアヒンジ	30,000						
000001	000001	0	007	01	引違いガラス窓	23,000						
000001	000001	0	008	01	片開かまち戸	11,500						
000001	000001	0	009	03	*小計*	64,500						
000001	000001	0	010	02	床工事	0						
000001	000001	0	011	01	ハイストーン	5,000						
000001	000001	0	012	03	*小計*	5,000						

【図 6】



【図 7】

31

出来高書式設定

工事 渡辺邸 新築工事 フォーム 991 出来高明細書

得意先 000001 得意先 01

出来高入力方法 ☒ 今回分を入力 出来高初期値区分 ☒ 初期値なし

出来高入力区分 ☒ 出来高金額

行番号	区分	工事項目	契約金額
001	02	ガラス工事	0
002	01	合わせガラス	10,000
003	01	複層ガラス	15,000
004	03	*小計*	25,000
...	...	...	...

次頁 前頁

出来高入力方法(選択) 取消 入力終了 処理終了

【図 1 2】

出来高明細書印刷

「出来高明細入力」で入力した出来高情報を出来高明細書に印刷します

工事番号	000001	渡辺邸 新築工事
契約日付	平成 18 年 2 月 20 日	
得意先	000001	得意先 01
出来高回数	3 回目まで (1~3)	出来高日付 平成 18 年 4 月 20 日
印刷列指定	3 列目 (1~4)	
印刷対象範囲	1 回目 ~ 3 回目	
出来高識別番号	991	出来高明細書

取消 入力終了 処理終了

出来高回数を入力してください

【図 1 3】

出来高明細書

工事項目	契約金額	1 回目	2 回目	3 回目
ガラス工事				
合わせガラス	10,000	1,000		
複層ガラス	15,000	500		
小計	25,000	1,500		
建具工事				
フロアベンジ	30,000	10,000		
引違いガラス窓	23,000	3,000		
片開かまち戸	11,500	5,000		
小計	64,500	18,000		
床工事				
ハイストーン	5,000	500		
小計	5,000	500		

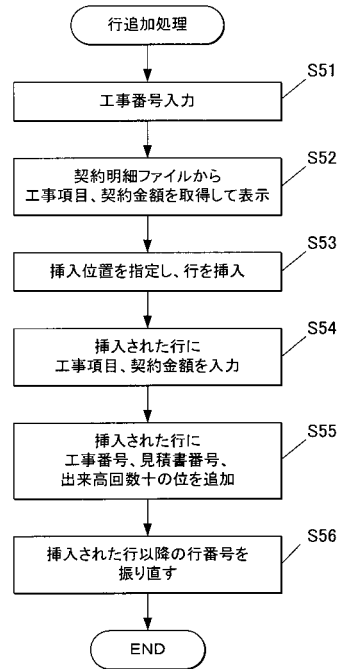
【図 1 5】

出来高明細書印刷

「出来高明細入力」で入力した出来高情報を出来高明細書に印刷します

工事番号	契約番号	出来高回数 十の位	行番号	区分	工事項目	契約金額	集引番号 0	集引番号 1	集引番号 2	集引番号 3	集引番号 9
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0	0001	0001	0001	0001	...
000001	000001	0	002	01	合わせガラス	10,000	0002	0002	0002	0002	...
000001	000001	0	003	01	複層ガラス	15,000	0003	0003	0003	0003	...
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000	0004	0004	0004	0004	...
000001	000001	0	005	02	建具工事	0	0005	0005	0005	0005	...
000001	000001	0	006	01	フロアベンジ	30,000	0006	0006	0006	0006	...
000001	000001	0	007	02	引違いガラス窓	23,000	0007	0007	0007	0007	...
000001	000001	0	008	01	片開かまち戸	11,500	0008	0008	0008	0008	...
000001	000001	0	009	03	*小計*	64,500	0009	0009	0009	0009	...
000001	000001	0	010	02	床工事	0	0010	0010	0010	0010	...
000001	000001	0	011	01	ハイストーン	5,000	0011	0011	0011	0011	...
000001	000001	0	012	03	*小計*	5,000	0012	0012	0012	0012	...

【図 1 4】



【図 1 6】

出来高明細書印刷

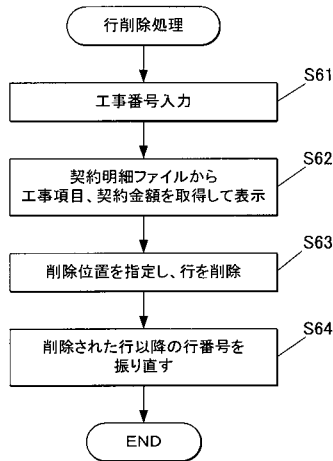
「出来高明細入力」で入力した出来高情報を出来高明細書に印刷します

工事番号	契約番号	出来高回数 十の位	行番号	区分	工事項目	契約金額	集引番号 0	集引番号 1	集引番号 2	集引番号 3	集引番号 9
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0	0001	0001	0001	0001	...
000001	000001	0	002	01	合わせガラス	10,000	0002	0002	0002	0002	...
000001	000001	0	003	01	複層ガラス	15,000	0003	0003	0003	0003	...
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000	0004	0004	0004	0004	...
000001	000001	0	005	02	建具工事	0	0005	0005	0005	0005	...
000001	000001	0	006	01	フロアベンジ	30,000	0006	0006	0006	0006	...
000001	000001	0	007	02	引違いガラス窓	23,000	0007	0007	0007	0007	...
000001	000001	0	008	01	片開かまち戸	11,500	0008	0008	0008	0008	...
000001	000001	0	009	03	*小計*	64,500	0009	0009	0009	0009	...
000001	000001	0	010	02	床工事	0	0010	0010	0010	0010	...
000001	000001	0	011	01	ハイストーン	5,000	0011	0011	0011	0011	...
000001	000001	0	012	03	*小計*	5,000	0012	0012	0012	0012	...

【図 17】

出来高明細書				
工事項目	契約金額	1回目	2回目	3回目
ガラス工事				
合わせガラス	10,000	1,000	6,000	
複層ガラス	15,000	500	3,500	
小計	25,000	1,500	9,500	
壁・天井工事				
石膏ボード張	24,500		11,000	
小計	24,500		11,000	
建具工事				
フロアベンジ	30,000	10,000	5,500	
引違いガラス窓	23,000	3,000	10,000	
片開かまち戸	11,500	5,000	1,500	
小計	64,500	18,000	17,000	
床工事				
ハイストーン	5,000	500	2,000	
小計	5,000	500	2,000	

【図 18】



【図 19】

工事番号	見積書番号	出来高回数 十の位	行番号	区分	工事項目	契約金額	索引番号 0	索引番号 1	索引番号 2	索引番号 3	索引番号 ...
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0	0001	0001	0001		
000001	000001	0	002	01	合わせガラス	10,000	0002	0002	0002		
000001	000001	0	003	01	複層ガラス	15,000	0003	0003	0003		
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000	0004	0004	0004		
000001	000001	0	005	02	壁・天井工事	0	0005	0005	0005		
000001	000001	0	006	01	石膏ボード張	24,500	0006	0006	0006		
000001	000001	0	007	03	*小計*	24,500	0007	0007	0007		
000001	000001	0	008	02	建具工事	0	0008	0008	0008		
000001	000001	0	009	01	フロアベンジ	30,000	0009	0009	0009		
000001	000001	0	010	01	引違いガラス窓	23,000	0010	0010	0010		
000001	000001	0	011	01	片開かまち戸	11,500	0011	0011	0011		
000001	000001	0	012	03	*小計*	64,500	0012	0012	0012		
000001	000001	0	013	02	床工事	0	0013	0013	0013		
000001	000001	0	014	01	ハイストーン	5,000	0014	0014	0014		
000001	000001	0	015	03	*小計*	5,000	0015	0015	0015		

行削除

【図 20】

工事番号	見積書番号	出来高回数 十の位	行番号	区分	工事項目	契約金額	索引番号 0	索引番号 1	索引番号 2	索引番号 3	索引番号 ...
000001	000001	0	001	02	ガラス工事	0	0001	0001	0001		
000001	000001	0	002	01	合わせガラス	10,000	0002	0002	0002		
000001	000001	0	003	01	複層ガラス	15,000	0003	0003	0003		
000001	000001	0	004	03	*小計*	25,000	0004	0004	0004		
000001	000001	0	005	02	壁・天井工事	0	0005	0005	0005		
000001	000001	0	006	01	石膏ボード張	24,500	0006	0006	0006		
000001	000001	0	007	03	*小計*	24,500	0007	0007	0007		
000001	000001	0	008	02	建具工事	0	0008	0008	0008		
000001	000001	0	009	01	フロアベンジ	30,000	0009	0009	0009		
000001	000001	0	010	03	*小計*	30,000	0010	0010	0010		
000001	000001	0	011	02	床工事	0	0011	0011	0011		
000001	000001	0	012	01	ハイストーン	5,000	0012	0012	0012		
000001	000001	0	013	03	*小計*	5,000	0013	0013	0013		

【図 21】

工事番号	出来高回数	見積書番号	索引番号	今回出来高金額
000001	03	000001	0001	3,000
000001	03	000001	0002	3,000
000001	03	000001	0003	5,000
000001	03	000001	0004	8,000
000001	03	000001	0005	3,000
000001	03	000001	0006	3,000
000001	03	000001	0007	3,000
000001	03	000001	0008	4,200
000001	03	000001	0009	4,200
000001	03	000001	0010	1,300
000001	03	000001	0011	1,300
000001	03	000001	0012	1,300
000001	03	000001	0013	1,300

【図 21】

出来高明細書				
工事項目	契約金額	1回目	2回目	3回目
ガラス工事				
合わせガラス	10,000	1,000	6,000	3,000
複層ガラス	15,000	500	3,500	5,000
小計	25,000	1,500	9,500	8,000
壁・天井工事				
石膏ボード張	24,500		11,000	3,000
小計	24,500		11,000	3,000
建具工事				
フロアベンジ	30,000	10,000	5,500	4,200
小計	30,000	10,000	5,500	4,200
床工事				
ハイストーン	5,000	500	2,000	1,300
小計	5,000	500	2,000	1,300